

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 4月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200934
法人名	社会福祉法人 いのかわ会
事業所名	ケアホーム「家族の家」浜川
所在地	群馬県高崎市浜川町1314 (電話) 027-340-1070
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年2月9日

【情報提供票より】(22年1月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.8

(2) 建物概要

建物構造	準耐火構造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月14日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.8歳	最低	77歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひぐち内科クリニック・第一病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は連携を密にしなが、理念に基づいたケアの実践に向けて取り組んでいる。利用者の意思を尊重し、日常生活のあらゆる場面(入浴・外出・献立作り等々)において、利用者の意向を確認してからケアに当たることを基本としている。協力医療機関と連携を図り、24時間継続した医療を受けられる支援体制が整備されており、過去に看取りを実践している。各居室には、本人の馴染みの物や好みのものが多数持ち込まれ、安心して過ごせるような配慮がなされている。運営推進会議を活かし、利用者が地域のいきいきサロンに参加し、事業所主催で「認知症サポーター養成講座」や認知症ケアの講師をする等、地域住民との交流を進めている。周囲の自然環境の活用により外気浴や毎日の散歩、食材の買物等日常的に外出する機会を作り、気分転換が図れるよう支援している。職員の言葉かけや態度は穏やかで、利用者がゆったりと過ごしているように見受けられた。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携については、利用者の報告や市主催の勉強会等に出向いたり、認知症サポーター養成講座開催の件で話し合う等、市の担当者や連携を図っている。プライバシーの確保の徹底については、法人内研修で取り上げ、言葉かけや対応には得に配慮をし、記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。災害対策については、年2回独自の避難訓練を行っているが、総合防災訓練はしておらず、地域住民への協力体制づくりの取り組みに期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、職員が個々に自己評価の項目を確認し、職員会議等で検討しながら管理者と主任がまとめ記載を行った。</p>
	<p>重点項目②</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的で開催されている。事業所から運営状況や評価結果等の報告を行い、出席者から意見等を受けて話し合いを行っている。地域協力メンバーから出された意見により、地域のいきいきサロンへ利用者が参加し、地域住民との交流が図られている。いきいきサロンで理事長と職員が「認知症サポーター養成講座」を開催したり、管理者が「認知症ケア」の講師をする等、地域住民との交流に努めている。</p>
<p>重点項目③</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、「家族の家」からのお便りを発行し、家族等に配布している。家族等の来訪時や運営推進会議に出席した際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見や要望等を聞くように努めている。職員が担当制の為、家族等も要望が出し易く、出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。玄関やカウンターに「意見箱」等を設置している。</p>	
<p>重点項目④</p> <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人達とは、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂くこともある。地域のいきいきサロンや敬老会等に参加している。地元高校の実習生を受け入れ、文化祭に招待されたり、吹奏楽の演奏訪問等も行われている。商店に買物に出かけたり、入居前からの友人宅へ訪問する等、地域住民との交流が図られている。</p>	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するため、職員会議等でケアの方向性を確認し、日々の生活の場に於いて理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂くこともある。地域のいきいきサロンや敬老会等に参加している。地元高校の実習生を受け入れ、文化祭に招待されたり、吹奏楽の演奏訪問等も行われている。いきいきサロンで理事長と職員が「認知症サポーター養成講座」を開催したり、管理者が「認知症ケア」の講師をする等、地域住民との交流に努めている。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、会議等で話し合い、具体的な改善に向け取り組んでいる。自己評価については、職員が個々に自己評価の項目を確認し、職員会議等で検討しながら、管理者と主任がまとめ記載を行った。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所から運営状況や評価結果等の報告を行い、出席者から意見等を受け話し合いを行っている。そこでの意見等はサービスの向上に活かしている。地域協力メンバー(区長)の声かけにより、利用者がいきいきサロンに参加し地域住民との交流を図っている。又、地域協力メンバーの増加について検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、市の介護相談員の受け入れを行っている。利用者の状況報告や事故報告、市主催の勉強会等に出向いたり、認知症サポーター養成講座開催の件で担当者で話し合う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「家族の家」からのお便りを発行し、家族等に配布している。家族等の来訪時には、利用者の生活状況や健康状態等について記録を基に報告している。身体状況の変化については、随時電話で報告を行っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議に家族等が出席した際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見や要望等を聞くように努めている。玄関やカウンターに「意見箱」等を設置している。職員が担当制の為、家族等も要望等が出し易く、出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者・職員による支援を受けられるように、管理者の入替えは無く、職員の交代も最小限に抑えるよう努めており、ダメージ等への配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス連絡協議会主催の見学研修・交換研修、認知症の人と家族が安心して暮らせる地域を考える集い等の外部研修に交代で参加している。参加者は報告書を作成し、職員会議で報告を行っている。年2回、理事長が講師になり、法人内研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、見学研修や交換研修、普通救急救命講習、救命措置の実技講習等に参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に本人・家族等に見学や体験宿泊で、ホームの雰囲気や様子を見てもらい、本人が納得した上での利用となるよう支援している。見学できない場合には、職員が自宅や施設等へ訪問し面談を行っている。入居後も、自宅や友人宅へ出かける等本人の希望に沿った対応をしたり、家族等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意な分野で力を発揮してもらえるよう場面設定をし、餅米の蒸し方、手打ちうどんの作り方、お供えの飾り方、伝統行事、人生訓等、利用者から教えてもらうことも多い。日常的に支えあいの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表(センター方式)を活用し、日常生活の中でのケア時等で確認を行い、本人の希望や意向の把握に努めている。入浴・外出・献立作り等、すべての場面において意向確認を行い、本人の意思を最優先するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が担当制になっており、担当職員が本人や家族等から要望や意向の確認を行い、介護計画に反映させるようにしている。職員会議等で話し合い、それぞれの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送り等で利用者の状況把握を徹底し、変化が生じた場合には随時見直しを行い、新たな介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、職員会議、カンファレンスで検討し、3ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況や要望に応じて、かかりつけ医への受診・通院介助、買物支援、自宅への送迎、外食、墓参り、入院中の洗濯物支援等、柔軟に対応している。又、3名が共用型デイサービスを利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人・家族等にかかりつけ医の確認を行っている。これまでの医師の継続や協力医への変更等、意向の確認を行っている。協力医と連携を図り、隔週で往診が行われ、24時間継続した医療を受けられる支援体制が整備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及びターミナルケアに関する指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明し同意を得ている。状態に変化が生じた場合には、その都度、家族等の意向を確認し、かかりつけ医、看護師等ケア関係者で話し合い、全員で方針を共有している。家族の希望により過去に看取りを実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや居室に入る際の確認・トイレ誘導・失禁時の対応には特に配慮をしている。運営推進会議に於いて実名は使わず、イニシャルで話すようにしたり、「お便り」に掲載する写真は本人・家族等の同意を得ている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、本人の体調や気持ちに沿って、起床から就寝まで自由に過ごせるよう支援している。本人の意思確認を行ってからケアに当たることを基本としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、食材の買物・野菜の皮むき・食器洗い・後片付け等を職員と一緒にしており、手打ちうどんを作ってくれる人もいる。又、職員も各テーブルに同席し介助や会話をする等、楽しく食事ができるよう支援している。おやつ(お好み焼き・おやき等)づくりを楽しんだり、外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望があれば、毎日入浴できる体制になっている。意思表示が困難な人の場合は、職員が時間等を決めて入浴支援を行っているが、意思表示のできる人には、本人の希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っており、夜間入浴や1日2回の入浴を楽しんでいる人もいる。古代檜の浴槽を使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、洗濯物たみ・食器洗い・草むしり・花の水遣り・掃除・犬の世話や散歩等、意思確認をしながら役割の支援をしている。テレビ鑑賞・書道・編み物・釣り・誕生会・節分の豆まき・クリスマス会・ボランティア(ハーモニカ・演芸等)の慰問等で楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ、近隣のサイクリングロード等を散歩したり、食材の買物等へ出かけている。又、初詣やどんど焼き、季節の花見やイチゴ狩り、外食、三ツ寺公園やシティギャラリーの展示見学等へドライブを兼ねて出かけ、日常的に気分転換が図れるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、見守りを徹底しながら安全面に配慮し、日中玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。本人の希望で、居室扉に簡易鍵を取り付けている利用者もいるが、本人の希望が無ければ鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、ホーム独自の避難訓練を行っている。災害時に地域住民の協力を得られるよう働きかけはしているが、協力体制は出来ていない。年度内に消防署の協力を得て、総合防災訓練を行う予定である。	○	ホーム独自の避難訓練は行っているが、リスク管理の観点から初期消火の重要性等を考慮し、具体的な実践訓練を行ってほしい。又、地域住民への協力体制づくりの取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	二日に1回、利用者の希望を取り入れ献立表を作成している。一人ひとりの食事の摂取状況を毎回記録し、職員は情報を共有しながら支援している。水分の摂取状況の記録については、状態が不安定な人のみ行っている。	○	潜在的な脱水予防等の観点から、食事の摂取量と同様に水分の摂取状況についても一人ひとりの記録を行い、1日を通してチェックしながら水分摂取量の把握をしていってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターに花を植えたり、玄関前に寛ぐためのベンチを設置している。室内は天井が高く、開放感がある。ホールは広く、壁には職員が描いた利用者一人ひとりの特徴のある似顔絵が貼られている。テレビやソファ等が設置してあり、一人ひとりの自由な居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、箆笥・テレビ・冷蔵庫・炬燵・テーブル・椅子・時計・家族の写真・化粧道具・聖書・縫いぐるみ等、一人ひとり使い慣れたものや好みのもが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような配慮がなされている。		